

巻 頭 言

校 長 藤 田 博 久

本校は、将来社会を牽引する国際的な科学技術人材の育成を図ることを目的とし、平成 23 年度に文部科学省から SSH 事業の指定を受け、理数教育の推進を図ってきた。平成 23 年度から平成 27 年度までの第Ⅰ期指定、1 年間の経過措置後、平成 29 年度から令和 3 年度までの第Ⅱ期指定の計 11 年間に於いてカリキュラム開発や研究活動を積み重ね、これまでの実績と更に内容を充実・発展させる計画およびその方向性が評価され、令和 4 年度より令和 8 年度までの 5 年間に於いて第Ⅲ期の指定を得ることができた。今年度は SSH 事業、第Ⅲ期の 4 年目にあたる。

第Ⅲ期では、第Ⅰ期・第Ⅱ期の取組成果を土台としつつ、更に発展させるために「探究的・分野横断的に科学的知識を身につけたグローバル人材を育成するプログラムの研究開発」を重点課題とし、「国際レベルで通用する、地球規模で考え地域から行動できる科学技術人材の育成」および「神戸市立学校への取組成果の着実な普及、全国への普及展開」を具体的な指標とした。そして、事業内容の柱として、「全探究」「全協働」「全普及」の 3 つを掲げ、研究開発の進展・深化を図ることとした。

第Ⅲ期 4 年目においては、「全探究」の推進として、1 年次の探究活動「プレ神戸学」を各系・コースの特色に応じた進め方から、全生徒共通プログラムの実施へと変更し、探究活動の基礎の定着を図るとともに、2 年次においては、放課後に「探究力 UP 講座」を開講し、探究活動の深化に繋げることができた。また生徒に対し、全科目において探究の視点を取り入れた「授業改善評価アンケート」を実施し、調査・分析をもとに教員の授業改善に繋がるよう取り組んだ。加えて、脳研究者の池谷裕二様を招いて「SSH 特別講演」を実施し、全校生の探究心の向上に努めた。「全協働」の推進としては、シンガポールの南洋女子高等学校との「国際共同研究研修」を継続実施し、シンガポール現地での海外研修を実施した。企業や大学等と連携して実施する「特別講義」を年間 8 回計画し、生徒の興味関心を高める工夫を図った。「全普及」の推進としては、本校主催の幼児・児童向けの実験教室を生徒主体で行い、「地域理数教育の普及」に努めた。さらに、他府県の高校生に加えて、近隣の中学生・大学生を「神戸学全体発表会」に招き、互いの探究成果を伝え合いながら普及に努めた。

上述のように、今年度は様々な取組を実践したが、「育みたい 6 つの力」の育成に繋がっているかを検証するとともに、SSH 運営指導委員の専門的見地からの指導助言を参考にしながら、研究開発の進展に向け、次年度への取組に活かしていきたい。特に、「学びの連動」をテーマに小中学校とも連携し、これまで蓄積してきたノウハウを活用しながら質の高い探究活動の普及に努めていきたいと考えている。

最後に本校の SSH 事業を支援いただいている文部科学省、科学技術振興機構、神戸市教育委員会、大学をはじめとする教育機関、協力いただいている研究機関、地元企業等の方々に心から感謝の意を伝えたい。

目次

❶	令和7年度スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告（要約）	3
❷	SSH 中間評価において指摘を受けた事項のこれまでの改善・対応状況	8
❸	関係資料	
1	育みたい力の定義と検証方法の概要	13
2	研究開発の経緯	14
3	実施の効果	18
4	教育課程表	20
5	運営指導委員会記録	23
6	課題研究テーマ一覧	25
7	各研究開発における検証結果の詳細	28
8	用語集及び資料	30

神戸市立六甲アイランド高等学校	基礎枠
指定第Ⅲ期目	04～08

① 令和7年度スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告(要約)

① 研究開発課題									
探究的・分野横断的に科学的知識を身に付けたグローバル人材を育成するプログラムの研究開発									
② 研究開発の概要									
SSH 事業推進の基礎となる事項の見直しを図り、指定第Ⅱ期までの成果を発展させ、以下のとおり、各プログラムの研究開発に加え、科学技術系人材育成に取り組む。									
(A) 「全探究」…全校探究型授業カリキュラムの開発(全校での授業改善、「神戸学」の推進、「理数実践」「理数探究基礎」「理数探究」の開発)									
(B) 「全協働」…様々な人と協働する資質・能力の育成(外部連携協働の推進、「国際共同研究研修」の再開発、神戸探究コンソーシアムの実施)									
(C) 「全普及」…地域理数教育拠点校として開発成果の普及・還元(探究活動指導の成果普及、地域科学連携プロジェクトの実施)									
③ 令和7年度実施規模									
課程(全日制)									
学 科	第1学年		第2学年		第3学年		計		実施規模
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	
	普通科	361	9	355	9	350	9	1,066	
課程ごとの計	361	9	355	9	350	9	1,066	27	全校生徒を対象に実施
④ 研究開発の内容									
○研究開発計画									
SSH 指定第Ⅲ期の5年間並びに、第Ⅲ期4年目の研究開発計画を次に示す。									
1年目 研究開発									
2年目 研究実践									
3年目 中間総括									
開発した事業・カリキュラムの中間総括及び4・5年目に向けたカリキュラムの再検討									
4年目 研究開発及び当期以降の検討									
中間評価の結果を踏まえた事業・カリキュラム及び評価方法の改善									
<プログラム A>		1 改訂版授業改善評価アンケートの実践 2 所属教員の入れ替え 各系における探究活動の実施及び指導手法の確認 3 「理数実践①②」の指定期終了後に向けた成果還元方法の検討 4 「理数探究基礎」及び「理数探究」の実践的カリキュラム開発							
<プログラム B>		1 研究連携システムの構築及び実践 2 「国際共同研究研修」の指定期終了後に向けた成果還元方法の検討及び国際学会などにおける成果発表							
<プログラム C>		1 「神戸探究コンソーシアム」の実践的開発 2 探究活動の普及を目的とする「授業公開」の実践的開発 3 各事業の実践的開発							
5年目 総括及び当期以降の準備									
開発した事業・カリキュラムの総括及び指定終了後に向けたカリキュラムの再検討									

○教育課程上の特例	
学校設定科目「理数実践①②」においてカリキュラム開発に取り組むため、次表のように必修科目の単位を減じ、その代替として当該科目を設定する。適応範囲は、入学時希望生徒である。	
教科・科目名	理数科・理数実践①②
対象・単位数	1、2年(入学時希望生徒)・2単位
単位を減じる科目 減じる単位数	保健体育科「保健」 2単位
特例が必要な理由	探究活動の基礎を身に付け、分野横断型の知識活用の視点を持って、課題研究の充実に繋げる必要があるため。「保健」の目標・内容を包含しており、十分に代替可能であると考える。
内容	「保健」における各単元の内容をテーマとした探究活動を実施する。探究活動の中で理科的な探究手法のみに特化するのではなく、数学科的な手法や科学的な手法を体験する活動を実施する。活動を通じて「分野横断型の知識活用」の視点を培い、探究活動サイクルを複数回経験することにより、探究力の育成を図る。履修生徒のうち希望生徒を対象に、課外活動として連携機関を訪問し、実地研修を実施する。
○令和7年度の教育課程の内容のうち特徴的な事項	
第3章 関係資料 第4節 教育課程表 に示す。	
○具体的な研究事項・活動内容	
＜プログラムA 全探究＞ 1 改訂版授業改善評価アンケートの実践 2 所属教員の入替え 各系における探究活動の実施及び指導手法の確認 3 「理数実践①②」の指定期終了後に向けた成果還元方法の検討 4 「理数探究基礎」及び「理数探究」の実践的カリキュラム開発	
＜プログラムB 全協働＞ 1 研究連携システムの構築及び実践 2 「国際共同研究研修」の指定期終了後に向けた成果還元方法の検討及び国際学会などにおける成果発表	
＜プログラムC 全普及＞ 1 「神戸探究コンソーシアム」の実践的開発 2 探究活動の普及を目的とする「授業公開」の実践的開発 3 各事業の実践的開発	
＜その他＞ 1 科学技術系人材育成	
⑤ 研究開発の成果	(根拠となるデータ等は「㉓ 関係資料」に一部掲載。)
＜プログラムA～C＞の成果は以下の通りである。	
＜プログラムA＞	1 改訂版授業改善評価アンケートの実践 令和6年度と同様に、6月と11月の年2回、学校全体で「授業公開週間」を開催し、6月は全教員の98%、11月は99%が授業見学に参加した。また、校内専門委員会の「学力向上推進委員会」が中心となって、全教科で共通の「授業改善評価アンケート」を作成し、本校全教員に実施を依頼した。結果、6月は143講座、11月は142講座(対象教員89名)で実施され、本校全体の授業における強みと課題を明確にすることができた。また、主

	体的・対話的で深い学びの視点から、令和7年度のアンケートは質問項目を昨年度のものから一部変更して実施した。加えて教員に対しても、授業内でのコミュニケーションや、自宅学習や自ら学びに向かう姿勢をつくる仕掛けなどを回答するアンケートを実施し、本校の取組を明確にした。 2 所属教員の入れ替え 各系における探究活動の実施及び指導手法の確認 各系の所属教員については、第Ⅲ期1年目に理数科教員を各系へ分散所属させている。今年度は、一部の理数科教員の所属を入れ替え、さらなる指導体制の充実を図った。また、昨年度改訂した各系・コースの「神戸学の手引き」については、各系・コースの探究活動で利用する上での改善点を洗い出し、より各系で活用しやすい形を目指し改訂を行った。さらに、既に作成が完了していた「探究力UP講座」についても内容の改訂を行った。加えて、これまでに公開した教材に加え、「理数実践②」にて使用した教材も学校HPや校外の研修会等で公開し、普及に努めた。 3 「理数実践①②」の指定期終了後に向けた成果還元方法の検討 指定期終了後のカリキュラムにて、「理数実践①②」の成果を還元できる新設科目の検討を行った。この新設科目は、「理数実践①②」で学ぶ内容をベースに再構築し、本校1年次の必修科目とする方向で調整している。この科目の担当者は理数科教員を中心としつつも、全教科の職員が対象となる予定である。この科目を設置することで、全生徒に対し「理数実践①②」のこれまでの成果を還元することができると考えられる。今年度の検討の結果、この科目を指定期終了後に開講することが確定した。 4 「理数探究基礎」及び「理数探究」の実践的カリキュラム開発 「理数探究基礎」では、総合科学系生徒が並行履修している「理数探究」の活動がさらに充実するよう、「理数探究」のカリキュラムとの連携を強化させた。一例としては、スライドの作成法や研究論文の書き方の指導をほぼ全て「理数探究基礎」にて行い、「理数探究」での担当教員による添削指導の時間を充実させた。また「理数探究」では、昨年度に成果物作成の流れを変更したため、一部スケジュールや内容を調整し、今後も継続して運用できる形を整えた。引き続き兵庫県立尼崎小田高等学校や大阪府立住吉高等学校など、授業内で他校との合同発表の機会を設けた。特に大阪府立住吉高等学校とは定期的にオンラインミーティングで交流しながら、住吉高校の生徒が本校主催の「神戸学全体発表会」に発表者として参加したり、住吉高校が主催する「住高・探究フェスティバル」に本校の生徒が発表者として参加したりするなど、学校間の交流が発展した。
<プログラムB>	1 研究連携システムの構築及び実践 昨年度、本校全教員を対象として、連携先や連携内容、連絡先等の集約を行った。個人情報保護の観点等から、校外への発信は断念したが、校内で共有し、連携先の追加・更新を行った。 2 「国際共同研究研修」の指定期終了後に向けた成果還元方法の検討及び国際学会などにおける成果発表 昨年度より、海外の学校との年間を通じたオンラインでの研究交流に加え、シンガポール現地での生徒間の交流及び科学施設見学等の研修を行っている。今年度は参加生徒に「国際リーダー(コミュニケーションで活躍する生徒)」と「研究リーダー(研究活動を主導する生徒)」のいずれかの役

	割を与え、チーム制で取り組ませた。指定期終了後を見据え、フィリピンの学校と、研究交流におけるパートナーシップ協定の締結を検討し、オンラインミーティングにて協定内容を調整した。今年度は外部発表会の参加回数を昨年度より大幅に増加させ、この取組の成果を高めることができたが、国際学会での発表はできていない。 3 「神戸探究コンソーシアム」の実践的開発 「神戸学全体発表会」には、昨年度に引き続き、外部の参加者として神戸市立中学校の生徒約 210 名が参加し、今年度は新たに他の高校や大学等からも 15 名の職員、16 名の学生が参加、10 グループがポスター発表を行った。外部の参加者たちは、本校の生徒の発表に対する質疑応答や助言を行った。この連携を発展・継続し、神戸市だけでなく複数の他都市とも連携する「神戸探究コンソーシアム」の発展案を検討し、本校の管理機関が調整を進めている。
＜プログラム C＞	1 探究活動の普及を目的とする「授業公開」の実践的開発 昨年度に引き続き放課後に「探究力 UP 講座」を教員・参加希望生徒に向けて開講し、年間 11 名の生徒が参加した。参加生徒は各系・コースの「神戸学」で、客観的な数値を積極的に用いるようになるなど、学校全体の探究活動の深化に大きく貢献した。また、その中で使用した教材は神戸市立の小・中学校の探究活動に関する研修で共有した。「神戸学全体発表会」では、神戸市立中学校の生徒約 210 名に対して、高校での探究活動の概要を伝える説明会も同時に実施し、中学校への探究活動の波及にも努めた。 2 各事業の実践的開発 幼児・児童を対象とした「わたしたちの科学のつどい」では、神戸市立中学校 1 校も引き続き実験者側として招待し、中高連携を強化しつつ地域に成果を還元できる機会となるよう開発を行った。その結果、544 名の地域の幼児・児童とその保護者が参加した。また、大学や企業等の様々な専門家を講師として招聘している「特別講義」では、実施内容をリニューアルしていただくなど、2 年連続で参加する生徒へも教育効果が高まるように内容を調整した。
＜その他＞	1 科学技術系人材育成 昨年度より中学生向けの学校説明会やオープンハイスクールの実施日数を増やし、内容を充実させたことにより、本校の SSH 事業を紹介する機会が充実した。それに伴い、総合科学系を希望する 1 年次生徒が 50 名を超え、増加傾向を示している。
⑥ 研究開発の課題 (根拠となるデータ等は「㊦ 関係資料」に一部掲載。) ＜プログラム A～C＞の課題は以下の通りである。	
＜プログラム A＞	1 改訂版授業改善評価アンケートの実践 本校が SSH 事業で育みたい力と、「授業改善評価アンケート」の項目をより強く関連づけ、改良していくことが課題である。今年度は、「主体的・対話的で深い学び」が本校教員の授業改善に結び付くように項目を改良した。これをさらに改良し、本校が育みたい力を全教科の科目でより強く意識させていきたい。 2 所属教員の入れ替え 各系における探究活動の実施及び指導手法の確認

	全ての系・コースで、「神戸学の手引き」を探究活動の流れに沿った形で完成させることが課題である。今年度はビジネス系に理数科教員を配置することができたが、「神戸学の手引き」は完成できていない。手引きが完成した系・コースについては、活用していく上での課題を洗い出し、再度改訂を行っていく。 3 「理数実践①②」の指定期終了後に向けた成果還元方法の検討 前述の通り、1年次の新設科目にて成果を還元する予定だが、その科目のカリキュラム開発が課題である。次年度は開発チームを結成し、カリキュラムの原案を作成する。また、新設科目内において扱いきれない内容は、「理数探究基礎」の教材への導入を検討している。 4 「理数探究基礎」及び「理数探究」の実践的カリキュラム開発 成果の普及を目指した「理数探究基礎」及び「理数探究」のカリキュラムの整理が課題である。特にこの2つの科目は2年次に並行履修するため、科目間の関わりを明確にした年間指導計画と使用教材を分かりやすい形で公開していく。
<プログラム B>	1 研究連携システムの構築及び実践 各系・コース、本校教員が連携している連携先を集約したリストに関して、まずは本校教員のさらなる利用を促していくことが課題である。また、指定期終了後も「神戸学中間発表会」「神戸学全体発表会」を継続できるよう、発表会の実施に向けたマニュアルを改善し、より多様な参加者・関係機関が参画できる体制づくりを検討する必要がある。 2 「国際共同研究研修」の指定期終了後に向けた成果還元方法の検討及び国際学会などにおける成果発表 海外での実地研修の継続実施及び成果普及のため、本校の年間スケジュール等を示したマニュアルの完成が課題である。また、国際学会や海外の生徒が多数参加する発表会への参加も課題である。 3 「神戸探究コンソーシアム」の実践的開発 昨年度より実施している中高大連携の継続実施、及び他校の生徒の発表者としての更なる参加拡大が課題である。外部の高校生の参加が進んだのに対し、大学生の発表者募集が難航した。運営指導委員との連携体制や、参加の仕組みを見直す必要がある。
<プログラム C>	1 探究活動の普及を目的とする「授業公開」の実践的開発 「探究力 UP 講座」の総合科学系以外の受講者を増やし、さらなる成果普及と運営システムの継続が課題である。昨年度の受講生への事後アンケートの結果を踏まえ、今年度は講座時間の増加を検討したが、学校行事や職員会議等の影響で実現できなかった。また、神戸市立高校をはじめ、HP等を活用した本校の探究活動に関する教材の全国の高校への更なる展開が課題である。 2 各事業の実践的開発 「わたしたちの科学のつどい」をはじめ、神戸市内の施設・企業や神戸市立学校との連携を強化・拡大し、神戸市立高等学校としての強みをさらに生かすことが課題である。
<その他>	1 科学技術系人材育成 総合科学系以外の生徒が容易に外部発表会の情報収集し参加できるよう、全系・コースでの発表会に関する情報共有が課題である。

② SSH 中間評価において指摘を受けた事項のこれまでの改善・対応状況

担当：高橋 健太

○Rokuai English Club および探究力 UP 講座の成果について

Rokuai English Club においては、前年度までは 10 月からの半年のみの実施だったが、今年度は参加生徒を年度当初(4 月)に決定し、1 年間を通じた英語力向上に努めた。参加生徒は、教員のサポートが一人一人に行き届くよう国際共同研究研修のメンバーのみとした。また、目標設定を明確にし、バックワードデザイン(逆算型プラン)を使って活動内容を決定した。今年度は「基本的な文法と単語を使い、様々な国籍の人と楽しんで会話できること」「英語のプレゼンテーションにおいて、原稿の棒読みでなく自分の言葉としてその場にに応じた英語を使いながら堂々と発表できること」という目標を設定した。以下の表の活動を実施した。

4 月～8 月	Canadian Academy との国際交流・Nanyang Girls' High School との共同研究(オンラインミーティング)、Science Conference 参加
8 月	シンガポール実地研修で英語を実践
9 月～2 月	外国籍の研究者を招待した講演、外部の英語発表会の参加(計 3 回)

この取組の効果により、共同研究の相手校であるシンガポール Nanyang Girls' High School から「非常に意義のある研究」との評価をいただき、国際科を併置する英語レベルの高い学校も参加した英語発表会においても、「本校が最も優れていた」と他校の教員や ALT から高い評価をいただくことができた。

今年度の探究力 UP 講座の昨年度からの変更点は、総合科学系生徒はこの講座の対象外としたことである。これは、総合科学系は理数探究および理数探究基礎が必修であるため、探究力の基礎的な力を向上させる本講座への参加は不要であると判断し、他の系・コースからの参加者を増やすことで、より多くの生徒にこの取組の成果を波及させようとしたからである。結果として参加人数は 11 名に減少したものの、総合科学系以外の生徒の探究力を向上させることができた。参加生徒は仮説の設定や検証方法などについて学び、この講座で学んだ内容を神戸学の探究活動に生かしていた。今年度は学校行事等の兼ね合いで昨年度より講座の実施回数が減少したが、指導内容を精査し効率化を図ることができた。学校行事や本事業の他の取組とのスケジュール調整も行いながら、指導に必要な実施回数と指導内容を検討していきたい。

○成果と課題の分析について

第Ⅲ期では「育みたい 6 つの力」に関して、15 項目でアンケート評価を実施している(P13、28、29 参照)。各取組の事前・事後にアンケートを実施することを基本とし、全校生徒に対しては、6 月と 12 月の年 2 回実施している(P28 の「SSH 神戸学」の数値は、全校生徒の結果数値である)。この全校生徒の結果と比較すると、本校における他の SSH の各取組に参加した生徒の値が高くなっていることがわかる。例えば、1・2 年次生が対象である多くの特別講義では、「SSH 神戸学」の 1・2 年次生の値より高くなっている。これは、特別講義に参加した生徒たちが、専門的な知見を持つ講師から新たな知見を得ることで、参加していない生徒よりも「育みたい 6 つの力」の成長を感じたからと考えられる。また、授業においては、「理数実践①②(①:1 年次、②:2 年次)」や「理数探究基礎(2 年次)」、「理数探究(2 年次)」の選択者の結果が、各年次の全生徒の結果を上回っている項目が多い。これらの授業では、主として探究活動に関する知識を学んだり、課題探究に実際に取り組んだりする活動を重

視している。このことから、本校の開発したこれらの探究科目やカリキュラムが、「育みたい6つの力」の成長に寄与していることがわかる。加えて「理数探究」は総合科学系の必修科目であるため、「理数探究」の結果は総合科学系生徒のみの結果である。総合科学系生徒の結果は全校生徒の結果よりもほとんどの項目で上回っており、本校のSSH事業をリードしていることがわかる。外部発表への参加も、総合科学系生徒の参加数が多くなっている。

今後の課題としては、このアンケートの結果をいかに生徒自身へフィードバックさせるかという点が挙げられる。適切にフィードバックすることができれば、生徒のモチベーション向上にもつながり、更に「育みたい6つの力」を伸ばすことができると考えられる。また、教員アンケートの結果については、生徒への「育みたい6つの力」に関するアンケートとの関連を分析できておらず、引き続き調査を続けていく必要がある。また、第Ⅲ期で設定していた育みたい力を、本校のグランドデザインとより密にリンクさせ、整理・精選したものを指定期終了後に導入する方向で検討中である。

○授業アンケートの質問内容について

中間評価の講評において『授業改善評価アンケート』の質問が、生徒の『主体的・対話的で深い学び』の視点になっていない内容があるため、質問内容の妥当性を含めて検討することが必要である」との指摘を受けた。指摘に該当する質問は「教科書の適切さ」「授業の進度の適切さ」「教員の熱意」「レポートの適切さ」についてのものであると推察する。この指摘を受け、授業改善評価アンケートの開発を担当する校内専門委員会の1つである学力向上推進委員会において、質問内容の再検討を行った。質問内容の検討は「国立教育政策研究所 主体的・対話的で深い学び『授業改善を学習者の視点と授業者の視点から』」を参考に、「授業者の視点」に対応する形で行った。

2025年度6月に本校で実施した「授業公開週間」で新たな質問項目に変更した「授業改善評価アンケート」を使用し、実際に生徒が教員の授業評価を行う中で、質問項目の内容の妥当性について再検討を行った。そして11月に実施した2回目の「授業公開週間」では、さらに改良した質問項目に変更した形で「授業改善評価アンケート」を実施した。2025年度の最終的な「授業改善評価アンケート」の質問項目は、以下の通りである。

【質問項目】

1. 前回までの授業やこれまで学んだ内容、その時間に学んだことを、授業の中で振り返る時間はありましたか。(主体的な学び)
2. 先生の話聞くだけでなく、自分で考えたり、自分の考えを表現したりする場はありましたか。(対話的な学び)
3. 毎回の授業や單元ごとの到達目標(目指す姿、身に付けたい力)は、明確に示されていましたか。(深い学び)
4. 授業中、他の人(生徒・先生・外部の方)とのコミュニケーション活動を通じて、自分と他の人の考えを比較したり、他の人の意見に触れたりして、自分の考えを広げたり深めたりすることができましたか。(対話的な学び)
5. 1週間のうち、授業外でどれくらいの時間、学習(座学)に取り組んでいますか(宿題も含む)。
①0 ②1時間未満 ③1時間～2時間 ④2時間～3時間 ⑤3時間以上
6. この授業をきっかけに、授業内容に関連する本を読んだり、映像を見たり、また授業内容に関連する新しいことに挑戦するなど、座学以外で自主的に学んだり、得た知識を活用しようとすることはありましたか。
7. 生徒の皆さんが主体となって行った活動(自分たちで疑問やテーマを決めたり、自分たちで情報を集めたり、自分たちで考え行動したり、自分たちでまとめて発表したり など)があったかどうかを教えてください。
①…あった ②…なかった

なお、上記の質問項目5.6については、国立教育政策研究所の資料とは対応していないが、学力向上推進委員会内で「授業外の学びや活動の変容こそ、主体的・対話的で深い学びの成果である」という意見で一致したため、設定した。本校ではこのアンケートを用いて今後も全校体制での授業評価を行い、年内及び経年での変化を分析しながら、授業改善に取り組んでいく計画を立てている。

○「理数実践」「理数探究基礎」「理数探究」の履修について

現在、「理数実践」は「保健」との選択科目であり、1 年次生徒が入学時に選択する。この科目の成果をより広く還元すべく、「理数実践」に替わる新しい探究科目を、再来年度の 1 年次全生徒が履修する科目として設置する方向で調整している。この新設科目は、「理数実践」で学んでいる内容をベースに再構築し、探究に関する基本的な手法を身につけさせるものである。この科目で 1 年次全生徒が探究活動の基礎を学ぶことで、2 年次からの神戸学の活動がより充実するものと考えられる。この科目の担当者は理数科教員を中心としつつも、全教科の職員が対象となる予定である。「理数探究基礎」は、総合科学系の系指定科目、情報科学系の自由選択科目である。今年度の情報科学系の選択者は 6 名であり、更なる探究力の向上のため、再来年度には情報科学系の系指定科目とする方向で検討している。「理数探究」は、総合科学系の系指定科目である。この科目については、本校の系・コースごとの科目選択や時間割作成の都合上、選択対象範囲を拡大することは難しい状況にある。

上記にて言及していない科目・講座を含め、再来年度に向けて現在検討中の探究に関連する科目とその履修年次を整理すると、以下ようになる。

- | | |
|---|-------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">・1 年次(全生徒)：「プレ神戸学(総合的な探究の時間)」・2 年次(全生徒)：「神戸学(総合的な探究の時間)」・2 年次(総合科学系、情報科学系)：「理数探究基礎」・2 年次(総合科学系)：「理数探究」・3 年次(全生徒)：「神戸学(総合的な探究の時間)」 | } 2 年次(参加希望者)：
探究力 UP 講座(放課後に実施) |
|---|-------------------------------------|

全校生徒が履修するのは「プレ神戸学」「新設科目」「神戸学」であり、従来の神戸学に加え、「新設科目」により「理数実践」の成果を還元する。これにより、2 年次からの「神戸学」への接続がスムーズになり、学校全体の探究力の更なるベースアップが期待できる。総合科学系と情報科学系はさらに探究科目が設置されているため、これらの系で本校の探究力のトップ層を育成できる。また、これらの科目以外でさらに探究について学びたい生徒への受け皿として、放課後に「探究力 UP 講座」を実施する。これらの科目展開により、これまで本校が第Ⅲ期にて培ってきた各探究科目の成果を還元していきたい。

○ICT 教育の推進について

現在、生徒は個人の端末(タブレット)を校内で利用できる環境にあり、Microsoft Teams や各種アプリ等を利用して授業用スライドを活用した授業を展開し、授業の教材の配信や課題の設定等を行っている。また、生徒のプレゼン力の向上を目的とした活動や生徒による模擬授業を行った教科もみられた。探究活動においては、1 年次で行う探究活動の「プレ神戸学」にて、1 人の教員が全 9 クラスのモニターに同じスライドを表示し、探究学習の目的や手法等の情報共有を ICT を活用して行っている。このほかにも先行研究の調査などにも ICT を活用している。2 年次の探究活動では、実験の様子の撮影、先行研究の検索、グラフや発表用資料(スライド・ポスター)の作成や投稿機能を使っての連絡を中心に活用している。また、オンライン上で他校とのミーティングを定期的に行い、意見交換を行ったり、学会の高校生発表に参加したりするなど、ICT を用いた外部交流・発表会参加に挑戦する生徒が増えた。

授業における今後の更なる活用としては、以下の点が考えられる。

1. 授業で使ったスライドを Microsoft Teams 上に掲載するなど、家庭での学習の定着を図るツールとして活用する。
2. 学習活動の中で疑問に思ったことなどを、動画や生成 AI を使って学習させ、学びの幅を広げる。
3. 既成コンテンツの活用を通して自由な学びや個々の進度に合わせた学びの活動を行うことができる。

探究活動においては以下のような活動が考えられる。

1. 実験結果や長時間の観察はデータロガーなどを用いてデータを取ることで、長時間の自動計測が可能となり、実験の効率化を図る。
2. 生成 AI を活用し、先行研究の検索や理解の一助とする。
3. オンラインによる企業や大学、他校との連携や交流をさらに進める。特に研究テーマに関するディスカッションを行う。

今後の展開において、情報モラルの向上や生成 AI 利用上の課題等に関する指導も同時に進めていかなければならないと考えられる。

○神戸学の推進について

中間評価の講評において『課題研究の質の向上に向けて、「神戸学」等を活用しながら具体的な取組を進める必要がある』という指摘を受けた。その改善に向けて以下の 2 点の取組を行った。

まず、総合科学系における課題研究の質の向上に向けては、「神戸学」の時間を活用して 2 年次生が 3 年次生に向けて課題研究の進捗報告を行う「2、3 年次合同発表会」を行った。この発表会では、3 年次生が 2 年次生に対して、1 年前の自分の経験をもとに今後の研究の進め方についてアドバイスを行った。アドバイスは同じ生徒目線ですぐに実行できるものが多く、2 年次生からは「同じ立場を経験した先輩から、同じ目線で研究についての意見をいただき非常に参考になった」というような感想が多数寄せられた。今回の発表会をきっかけに研究の方向性を変えた班や、外部発表会への参加意欲を示すようになった班もあり、課題研究の質の向上に大きく貢献した発表会になったと考えている。

次に、すべての系・コースの 1 年次が取り組む探究活動「プレ神戸学」の大幅なカリキュラム変更を行った。昨年度までの「プレ神戸学」は個人でテーマを設定し、個人で仮説を立て、検証を行い、スライド作成をして、発表するまでの流れを経験するカリキュラムであった。しかしこのカリキュラムの場合、2 年次からの「神戸学」において、新たに班をつかってテーマを再設定するため、1 年次で考えたテーマが 2 年次に繋がらない点や、2 年次はまた一からの探究活動になるため時間が不足する点など、探究活動を深めるにあたっての課題が見られた。そこで今年度からは 1 年次の段階で班をつくり、1 年次は「テーマ」「意義」「仮説」「検証方法」までの活動を行い、2 年次に繋げるカリキュラムに変更した。昨年度までと比較して生徒が取り組む時間に余裕が生じたため、一つ一つの内容をより深く考えることが可能となった。特に社会的意義や検証方法など、より現実的な視点から考えることができた。また、今年度は 1 年次で班を決定し検証方法まで考えたことによって、2 年次からの「神戸学」ですぐに活動に取り組むことができる体制を整えることができた。この体制による効果の検証は次年度以降となるが、生徒はすでに今後の見通しを立てているため、自分たちで試行錯誤をする時間や探究サイクルを繰り返し回す時間を例年以上に確保することができると考えられる。結果として探究活動の更なる質的向上が期待できる。

○国際共同研究研修について

中間評価では、「参加者が少ないこと」「国際共同研究を他校でも実施できるようにマニュアルを作成することを期待する」という2点の指摘があった。「参加者の少なさ」の理由については、本校の生徒・保護者の声として3点考えられる。1つ目は費用の高さ、2つ目は部活動との両立、3つ目に本校生徒の性質によるものである。費用面に関しては、少しでも家庭の負担が軽減するように学校や後援会からの支援を検討していきたい。部活動との両立に関しては、部活動顧問と丁寧に連携をとり、どちらも柔軟に対応できるように努め、カリキュラム作成時にも配慮していく。3つ目に関しては、理系要素が必要とされる研究活動と語学修得の両方に対して極めて高い興味・モチベーションが要求されるなど、非常にハードルが高くなっていることが考えられる。(例：海外研修で英語を実践することは興味があるが理系科目が苦手など)これに関しては研究リーダーと国際リーダーで役割を分けることで、チームとして理系と英語の要素が成り立つように昨年度から実施している。これにより、増幅は少ないが令和6年度は3人だったのに対し、令和7年度は4人に増えた。令和8年度は、現在7名の生徒から応募があり、過去最大の人数で実施できる見込みである。

国際共同研究のマニュアル作成については、現段階では作成の検討中だが、本校が機能していると考えられる「海外の学校と長期継続的に共同研究を行う方法」「オンライン→対面での研究実践のフロー」「連携先の学校の見つけ方」「テーマの選定方法」等を中心に作成が可能と考えられる。

○開発教材の普及について

本校では、これまで「課題研究の手引き」や「極めるスライド発表」等の開発教材が公開され、他の神戸市立の高等学校においても活用されてきた。

また、本校の探究活動である「神戸学」では、すべての系・コースに文系と理系の教員がそれぞれ配属され、教科横断的な視点で指導している。文系の教員が理系の探究活動の発表を見る際は、誰でも理解できるような説明になっているか、文献調査の方法は適切かなど、それぞれの得意分野や視点を生かして意見を出すようにしている。さらに、それぞれの系・コースで「神戸学の手引き」の内容を検討する際は、教員がそれぞれの視点から意見を出し合いながら、毎年少しずつ改良を加えより良い教材づくりを目指している。

本校独自の開講科目である「理数実践」は、1年次入学時の選択科目であるため、文系や理系にとらわれず選択することができる。この科目では実験の手順を学んだり、探究の手法やサイクルを経験したりしながら探究における基礎的な知識を身に付けていく。また、その中で実験結果の標準偏差や標準誤差を求めるような、統計的处理を扱った教材もある。このように理系のテーマを題材とした教材だけでなく、アンケートを取り探究を進めていくような探究テーマを扱うこともある。様々な分野の視点で探究活動の手法を学べるよう、常に教材に改良を加え授業を展開している。他にも「探究力UP講座」では、総合科学系以外のすべての系・コースの2年次生を対象に開講している。参加しているすべての生徒が、数的処理の手法を学べるような教材を提供している。これらの科目や講座で分野横断的な視点で探究活動の手法を学んでいる生徒が、「神戸学」の探究活動においてリーダー的な役割となり、校内外の発表会などで活躍する姿が多くみられるようになった。

現在は全体的に文系の生徒が理系の探究手法を学び、活用できるようにする教材が主体である。今後は文系の探究的手法を理系の生徒が学べるような機会をさらに充実させ、さまざまな探究手法を組み合わせた教材を開発していきたい。

③ 関係資料

3.1 育みたい力の定義と検証方法の概要

担当：萩森 弥助

(1)育みたい6つの力の定義

SSH 事業を通して「育みたい6つの力」を以下のとおり定めた。また、定めた6つの力の要素をリテラシー、もしくはコンピテンシーの学びの領域に区別し、指導への還元と効率化を図った。

生徒像	探究的・分野横断的に科学的知識を身に付けたグローバル人材 (地球規模で考え地域から行動できる科学技術人材)		
育みたい力	要素		学びの領域
A 課題設定力	a	課題に対して取り組むべきことを明確にできる	リテラシー
	b	身の回りの現象に興味や疑問をもつことができる	コンピテンシー
B 企画協働力	c	自ら考え主体的に取り組むことができる	コンピテンシー
	d	仲間と協力して行動することができる	コンピテンシー
C 論理考察力	e	与えられた情報を自分で整理することができる	リテラシー
	f	教科や分野を超えて思考することができる	コンピテンシー
	g	根拠をもって物事を論理的に考えることができる	コンピテンシー
	h	学んだ内容と社会との関係を考えることができる	コンピテンシー
D 自己学習力	i	正しい情報を自ら選択、収集することができる	リテラシー
	j	継続して課題や学習に取り組むことができる	コンピテンシー
E 表現理解力	k	自分の考えを他者に伝えることができる	リテラシー
	l	他者の話に疑問をもち、質問することができる	リテラシー
	m	英語を用いて発表や意思疎通ができる	リテラシー
F 知識・技能	n	理数的な技術や知識を身につけることができる	リテラシー
	o	目的に応じた ICT 機器の活用ができる	リテラシー

(1)評価調査の概要

SSH の各取組にて、「各取組に参加した生徒を対象に、6つの力がどのように変容したかを明らかにする評価調査」と「全校生徒を対象に、年度を通じて6つの力がどのように変容したかを明らかにする評価調査」を実施した。前者は各取組の実施前ならびに実施後に実施し、後者は6月と12月に実施した。調査結果は3.7各研究開発における検証結果の詳細にまとめた。

事前 特別講義アンケート(事前)
特別講義で6つの力がどのように変容したかを明らかにする調査

以下のa-oの項目について、あなたに最も当てはまる番号をマークしてください。
1: 全く思わない 2: あまり思わない 3: どちらでもない 4: やや思う 5: 思う

あなたの所属する系・コースを選択してください。
※ Aは選択しないでください
B. 総合科学系
※ C-Dは選択しないでください
E. 人文社会系
F. ビジネス系
G. 情報科学系
H. 人間科学系
I. 人間科学系スポーツコース
J. 芸術系
K. 芸術系音楽コース
L. 芸術系美術コース
M. 芸術系デザインコース
N. 芸術系デザインコース
O. 芸術系デザインコース

※ 1組～01 1組～01をマーク
※ 名前を記入しないで、マークスに注意してください。

6つの力とは
ア. 課題設定力
イ. 企画協働力
ウ. 論理考察力
エ. 自己学習力
オ. 表現理解力
カ. 知識・技能

あなたが「本年度」理解している程度があれば教えてください(なければ空欄)。
A. 理数実践①(1年次)
B. 理数実践②(2年次)
C. 理数探究基礎(2年次)
D. 理数探究(2年次)
※ この質問のみ、複数ある場合は複数選択してください。
A B C D

a. 課題に対して、自分が取り組むべきことを明確にできる。
1 2 3 4 5 アー課題設定力

b. 身の回りの現象に興味や疑問をもつことができる。
1 2 3 4 5 アー課題設定力

c. 何かに取り組む際に、自ら考え主体的に取り組むことができる。
1 2 3 4 5 イー企画協働力

d. 何かに取り組む際に、仲間と協力して行動することができる。
1 2 3 4 5 イー企画協働力

e. 与えられた情報を自分で整理することができる。
1 2 3 4 5 ウー論理考察力

f. 教科や分野を超えて思考することができる。
1 2 3 4 5 ウー論理考察力

g. 根拠をもって、物事を論理的に考えることができる。
1 2 3 4 5 ウー論理考察力

h. 学んだ内容と社会との関係を考えることができる。
1 2 3 4 5 ウー社会生活力

i. 正しい情報を自分で選択、収集することができる。
1 2 3 4 5 エー自己学習力

j. 課題や学習に対して、継続して取り組むことができる。
1 2 3 4 5 エー自己学習力

k. 自分の考えを他者に伝えることができる。
1 2 3 4 5 オー表現理解力

l. 他者の話に疑問をもち、質問することができる。
1 2 3 4 5 オー表現理解力

m. 英語を用いて発表やコミュニケーションをとることができる。
1 2 3 4 5 カー科学的知識・技能

n. 理数的な技術や知識を身につけることができる。
1 2 3 4 5 カー科学的知識・技能

o. 目的に応じたICT機器の活用ができる。
1 2 3 4 5 カー科学的知識・技能

※ 質問以外、1つの質問につき、1つだけマークしてください。マークする際は、濃く丁寧に、はみ出さないように塗りつぶしてください。

3.2 研究開発の経緯

担当：梅村 佳史

(1)プログラム A 全探究

「全校授業改善の実施」「理数実践①②」「理数探究基礎」「理数探究」「神戸学」「プレ神戸学」の研究の経緯を下表に示す。

日程	プログラム	内容	参加人数
毎週	理数実践①	1 クラス 16 人～21 人 9 クラス展開で週に 1 時間	入学時希望生徒 156 名
毎週	理数実践②	1 クラス 9～17 人 9 クラス展開で週に 1 時間	昨年度「理数実践①」 履修生徒 106 名
毎週火曜	理数探究基礎	1 クラス展開で週に 1 時間	総合科学系 2 年次 58 名 情報科学系 2 年次 6 名
毎週火曜	理数探究	1 クラス展開で週に 2 時間	総合科学系 2 年次 58 名
毎週金曜	神戸学	8 つの系・コースにて 週に 1 時間	2 年次 355 名 3 年次 350 名
6 月 2 日(月) ～20 日(金) 11 月 4 日(火) ～21 日(金)	全校授業改善	授業改善に向けた 授業公開週間	本校教員 6 月：87 名/89 名(98%) 11 月：87 名/88 名(99%)
10 月 10 日(金)	理数探究	SSH 運営指導委員との 課題研究意見交換会	総合科学系 2 年次 58 名
1 月 30 日(金)	プレ神戸学	プレ神戸学発表会	1 年次 361 名
2 月 6 日(金)	神戸学	神戸学全体発表会	1 年次 361 名、2 年次 355 名 大学等職員 12 名、住吉高等 学校 14 名、大学生 2 名、 市内中学生 210 名
毎月木曜 (不定期)	理数実践①② 理数探究基礎 理数探究 神戸学	SSH 実行委員会 (SSH 事業、探究活動の授業 に関する会議)	本校教員 8 名

(2)プログラム B 全協働

「外部連携の推進」「国際共同研究研修」「神戸探究コンソーシアムの実施」の研究の経緯を下表に示す。

日程	プログラム	内容	参加人数
5 月 29 日(木)	外部連携の推進	第 1 回特別講義 生きもの科学研究所	1 年次 20 名、2 年次 2 名
6 月 19 日(木)	外部連携の推進	第 2 回特別講義 東水環境センター	1 年次 16 名、2 年次 4 名

7月24日(木) 7月25日(金)	外部連携の推進	臨海実習 神戸大学	1年次15名、2年次5名
8月4日(月)	国際共同研究研修	第1回国内研修 株式会社島津製作所	総合科学系2年次2名 人文社会系2年次2名
8月5日(火)	外部連携の推進	第3回特別講義 明石市立天文科学館	1年次19名 他校生徒21名、他校教員6名
8月8日(金)	国際共同研究研修	第2回国内研修 名古屋市科学館 トヨタ産業技術記念館	総合科学系2年次2名 人文社会系2年次2名
8月19日(火)	外部連携の推進	第4回特別講義 日本ベーリンガー インゲルハイム 株式会社	1年次8名 他校生徒4名、 関係職員・他校教員4名
8月19日(火)～ 8月20日(水)	外部連携の推進	つくばJAXA見学研修	総合科学系2年次2名 市内中学生20名
9月26日(金)	外部連携の推進	SSH特別講演 脳研究者 池谷 裕二様	1年次361名 2年次355名 3年次350名
10月10日(金)	外部連携の推進	神戸学中間発表会	2年次355名 大学教授等専門家32名
10月27日(月) 11月27日(木) 12月23日(火)	外部連携の推進	大阪府立住吉高等学校 探究交流会	総合科学系2年次4名 人文社会系2年次2名
11月18日(火)	外部連携の推進	兵庫県立 尼崎小田高等学校との 合同発表会	総合科学系2年次58名 尼崎小田高等学校生徒40名
11月20日(木)	外部連携の推進	第5回特別講義 川崎重工業株式会社	1年次20名
12月18日(木)	外部連携の推進	第6回特別講義 兵庫県立大学	1年次9名
1月28日(水)	外部連携の推進	第7回特別講義 白鶴酒造株式会社	1年次8名
1月31日(土)	外部連携の推進	大阪府立住吉高等学校 住高・探究フェスティバル	総合科学系2年次3名 人文社会系2年次2名
2月3日(火)	神戸探究コンソーシアムの実践的開発	神戸市立高等学校 教育課程研究協議会 総合的な探究の時間 グループ研修会	神戸市立小・中・高等学校職員 57名、教育委員会職員・他8名
2月6日(金)	外部連携の推進	神戸学全体発表会	1年次361名、2年次355名 大学等職員12名、大阪府立住吉 高等学校14名、大学生2名、市 内中学生210名
3月9日(月)	科学技術系人材育成	小中高連携探究の学習 発表交流会	総合科学系2年次2名 他校生徒は報告書作成時点で 未実施のため計測不可

3月17日(火)	外部連携の推進	甲南大学特別授業 甲元 一也教授	総合科学系1年次55名
3月25日(水)	外部連携の推進	第8回特別講義 シスメックス株式会社	総合科学系1年次8名 2年次1名
毎週月曜、水曜	国際共同研究研修	週に1～2回の実験活動	総合科学系2年次2名 人文社会系2年次2名

(3)プログラムC 全普及

「探究活動指導に関する成果普及」「地域科学連携プロジェクト」の研究の経緯を下表に示す。

日程	プログラム	内容	参加人数
通年	探究活動指導に関する成果普及	探究力UP講座の教材 学校広報紙SSH NEWS 課題研究の手引き 神戸学の手引き 研究課題バンク 研究ポスター 以上の内容を各教科等のHPにて公開・更新	人数の計測なし
7月29日(火)	探究活動指導に関する成果普及	神戸市立高等学校 教育課程研究協議会 総合的な探究の時間 グループ 分科会	神戸市立高等学校職員37名
8月1日(金)	地域科学連携プロジェクト	サイエンスコンテスト	総合科学系3年次1名
1月11日(日)	地域科学連携プロジェクト	わたしたちの科学の つどい 神戸市立青少年科学館	総合科学系1年次55名 自然科学研究部6名
3月20日(金)	地域科学連携プロジェクト	小中学生向け「第3回 ひょうご化学塾」 神戸市立青少年科学館	総合科学系2年次6名

(4)その他

「科学技術系人材育成」の研究の経緯を下表に示す。

日程	プログラム	内容	参加人数
7月12日(土)	科学技術系人材育成	サイエンスカンファレンス in 兵庫 神戸大学	総合科学系2年次2名 人文社会系2年次1名
7月14日(月)	科学技術系人材育成	神戸ALネットワーク事業(夏) 神戸市立葺合高等学校	総合科学系2年次31名
7月21日(月)	科学技術系人材育成	高校生サミット 第1回ワークショップ 須磨海岸	総合科学系2年次2名 人文社会系2年次1名

8 月	科学技術系 人材育成	神奈川大学 全国高校生理科・ 科学論文大賞	総合科学系 3 年次 33 名
8 月 2 日(土)	科学技術系 人材育成	サイエンスファーム 2025 @オンライン	総合科学系 2 年次 23 名
8 月 6 日(水) 8 月 7 日(木)	科学技術系 人材育成	SSH 生徒研究発表会 神戸国際展示場	総合科学系 2 年次 58 名 総合科学系 3 年次 1 名
8 月 24 日(日)	科学技術系 人材育成	International Student Symposium 2025 (ISS2025) @オンライン	総合科学系 3 年次 1 名
9 月 6 日(土)	科学技術系 人材育成	日本動物学会第 96 回 名古屋大会高校生ポスター発表 ポートメッセなごや	自然科学研究部 4 名 (1 年次生 2 名、2 年次生 2 名)
9 月 25 日(木)	科学技術系 人材育成	日本金属学会 2025 年秋季講演 大会 第 14 回高校生・高専学生 ポスターセッション @オンライン	総合科学系 2 年次 8 名
10 月	科学技術系 人材育成	日本学生科学賞 神戸市立青少年科学館	総合科学系 2 年次 13 名 自然科学研究部 11 名
10 月 18 日(土)	科学技術系 人材育成	大阪サイエンスデイ 大阪府立天王寺高校	総合科学系 2 年次 4 名 人文社会系 2 年次 2 名
10 月 26 日(日)	科学技術系 人材育成	高校生サミットへの第 3 回 ワークショップ 兵庫県立人と自然の博物館	総合科学系 2 年次 2 名 人文社会系 2 年次 1 名
11 月 15 日(土)	科学技術系 人材育成	地域課題解決高校生サミット 兵庫県立尼崎小田高等学校	総合科学系 2 年次 2 名 人文社会系 2 年次 2 名
12 月 5 日(金)	科学技術系 人材育成	第 48 回日本分子生物学会年会 高校生発表 パシフィコ横浜	総合科学系 2 年次 4 名
12 月 20 日(土)	科学技術系 人材育成	地域課題解決高校生サミット 京都大学	総合科学系 2 年次 2 名 人文社会系 2 年次 1 名
12 月 21 日(日)	科学技術系 人材育成	甲南大学リサーチフェスタ 2025 甲南大学岡本キャンパス	総合科学系 2 年次 1 名
1 月 25 日(日)	科学技術系 人材育成	サイエンスフェア in 兵庫 神戸大学統合研究拠点	総合科学系 2 年次 58 名 総合科学系 1 年次 55 名
1 月 29 日(木)	科学技術系 人材育成	神戸 AL ネットワーク事業(冬) 神戸市立葺合高等学校	総合科学系・人文社会系 芸術系美術・デザインコース・ PBL 計 46 名
3 月 18 日(水)	科学技術系 人材育成	日本金属学会 2026 年春季講演 大会 第 15 回高校生・高専学生 ポスターセッション @オンライン	総合科学系 2 年次 7 名

3.3 実施の効果

担当：伊藤 芙悠子

本章では、生徒を対象に行った調査の結果を分析し、実施の効果とその評価を詳述する。具体的には次の(1)6つの力変容調査、(2)進路調査、(3)課外活動調査に分けて述べる。

(1)6つの力変容調査

本校の全生徒において、年度を通じて6つの力がどのように変容したかを分析・比較するための評価を行った。用いた質問項目はP.13の表の通りである。年間2回(6月及び12月)、全校生徒を対象に調査を実施した。各質問項目の「そう思う」～「そう思わない」という回答を、それぞれ5～1点として、全年次の平均値を6月と12月に分けて算出した。その結果を図1に示す。

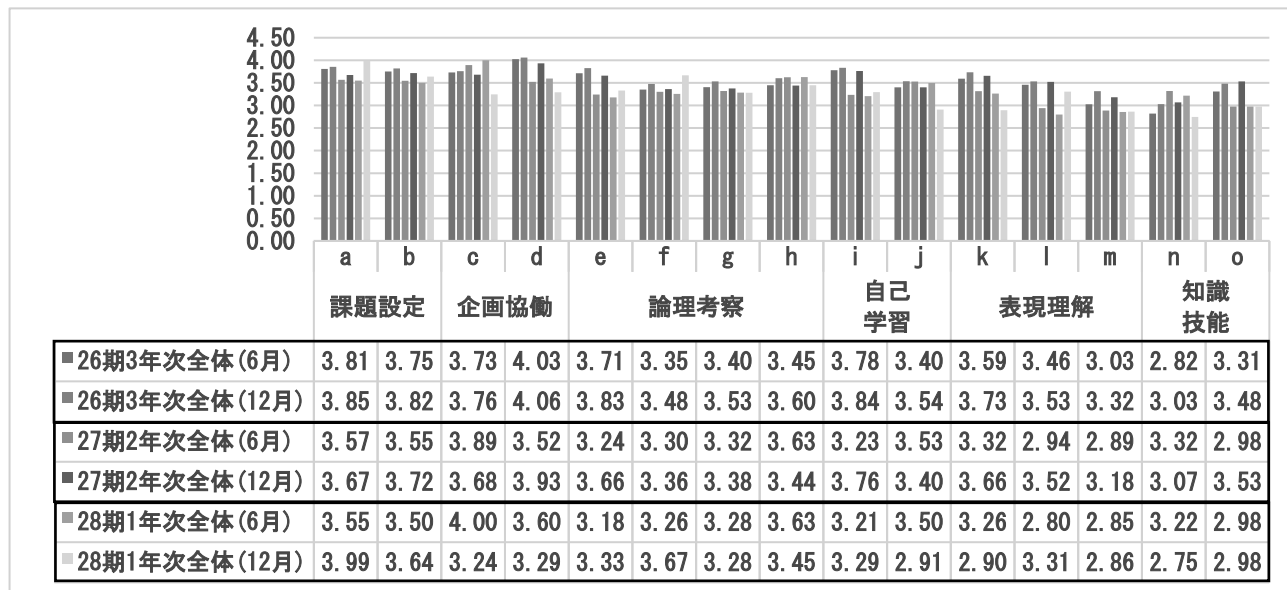


図1 全年次の6月から12月にかけての変化

(2)進路調査

第Ⅲ期ではこれまでの本校取組の成果を全ての系・コースに普及させていくことを踏まえ、第Ⅲ期の2・3年目である令和5・6年度における各系・コース卒業生の理系進路の割合を表2に示す。

系・コース	令和5年度	令和6年度	前年比
人文社会	6%	10%	+4%
総合科学	80%	61%	-19%
芸術 音楽	0%	0%	0%
芸術 美術	7%	7%	0%
ビジネス	13%	5%	-8%
情報科学	69%	34%	-35%
人間科学・スポーツ	26%	56%	+30%
人間科学・生活福祉	23%	21%	-2%

表2 令和5・6年度の全ての系・コースの理系進路の割合

また平成29年度から3期3年目の令和6年度までを対象に、理系の進路を選択した総合科学系生徒の割合を図3に示す。指定前の平成22年度は、総合科学系卒業生徒数58人、うち現役で理系に進学した生徒の割合は55%であった。

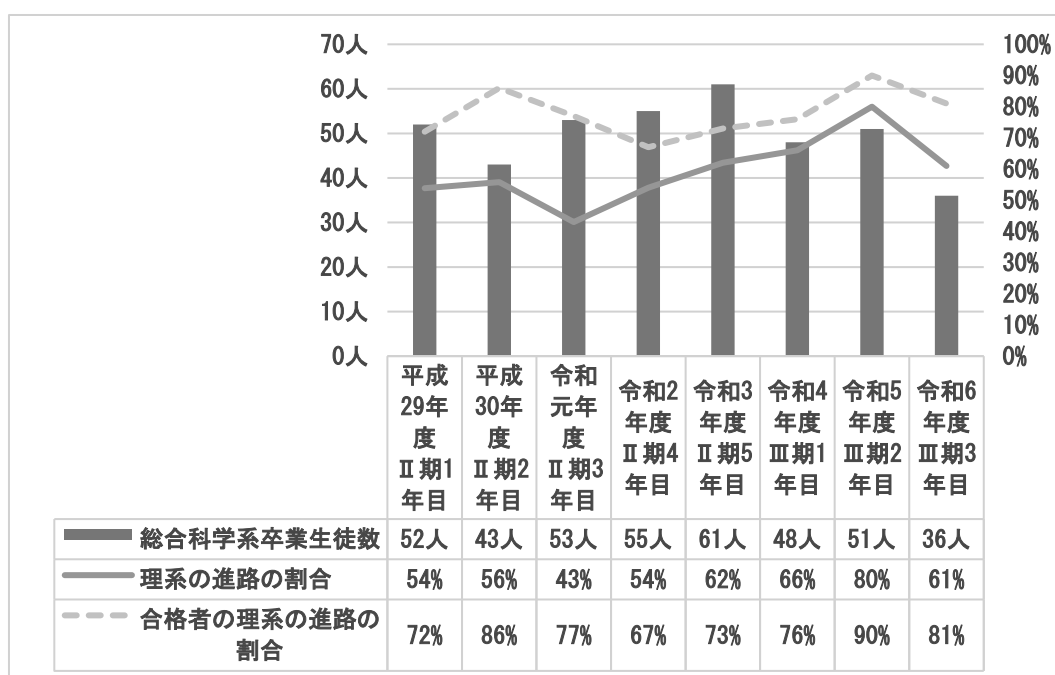


図3 平成29年度から令和6年度までの総合科学系卒業生数と
総合科学系生徒の理系進路の割合

(3)課外活動調査

生徒の課外活動がSSH指定前後で変化したかを明らかにするため、課題研究校外発表数、自然科学研究部員数を指標に調査を行った。対象はSSH指定前の平成22年度から令和7年度までとした。その結果を図4に示す。

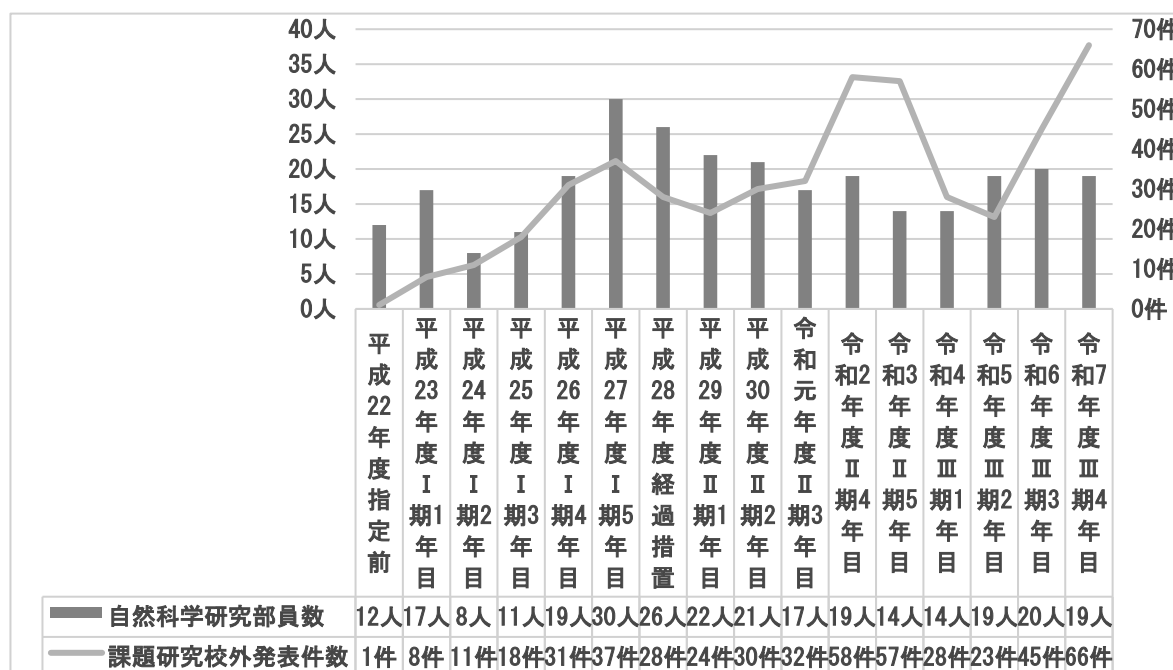


図4 自然科学研究部員数と課題研究校外発表件数

6つの力変容調査では、3年次は6月から12月にかけて全項目で値が向上した。進路調査では、情報科学系で理系進路の割合が減少したものの、人文社会とスポーツ系では割合が高くなった。課外活動調査では、校外発表の数が顕著に増加し、過去最大の件数となった。全体を通して指定第Ⅲ期1年目よりも数値が向上しているデータが多いため、各取組の成果が出ていると考えられる。

3.4 教育課程表

担当：森藤 知也

令和7年度教育課程表

神戸市立六甲アイランド高等学校

普通科

令和7年度入学生

教科・科目		標準 単 位 数	1 年	2 年	3 年	合 計
国語	現代の国語	2	2			4
	言 語 文 化	2	2			
地理・歴史	歴史総合	2	2			4
	地理総合	2			2	
公民	公 共	2		2		2
数 学	数 学 I	3	3			5
	数 学 A	2	2			
理 数 科	◎ 理 数 実 践	2	△1	□1		0～2
理 科	化 学 基 礎	2	2			6
	物 理 基 礎	2		▼2		
	生 物 基 礎	2		▼2		
	地 学 基 礎	2		▼2		
保 健 体 育	体 育	7～8	3	3	2	8～10
	保 健	2	△1	□1		
芸 術	音 楽 I	2	※2			2
	美 術 I	2	※2			
	書 道 I	2	※2			
外 国 語	論 理 ・ 表 現 I	2	2			13
	英語コミュニケーションI	3	3			
	英語コミュニケーションII	4		4		
	英語コミュニケーションIII	4			4	
家 庭	家 庭 基 礎	2	2			2
情 報	情 報 I	2	2			2
選 択	A 群			8～13		8～13
選 択	B 群				6～14	6～14
選 択	C 群			3～11	6～15	10～26
計			28	28～29	28～29	84～86
総 合 的 な 探 究 の 時 間	進 路 プ ラ ン ニ ン グ	3	1			3
	神 戸 学			1	1	
特 別 活 動	ホ ー ム ル ー ム		1	1	1	3
自 立 活 動			0～1	0～1	0～1	0～3
合 計			30～31	30～32	30～32	90～95

◎＝学校設定科目

※を付した3科目の中から1科目選択

▼を付した3科目の中から2科目選択

△を付した2科目の中から1科目選択

□を付した2科目の中から1科目選択

△と□の保健と理数実践は2単位科目であり、2年間で1単位ずつの分割履修とする。

普通科

神戸市立六甲アイランド高等学校
令和7年度入学生

◎は、「学校設定科目」

選択 A 群

教科	正式科目名	校内科目名	単位
国語	論理国語	論理国語①	2
	文学国語	文学国語①	2
	国語表現	国語表現①	2
	古典探究	古典探究①	2
歴史地理	日本史探究	日本史探究1	3
	世界史探究	世界史探究1	3
数学	数学Ⅱ	数学Ⅱ	4
	数学B	数学B	2
	◎数学ⅠA発展1	数学ⅠA発展1	2
理数	理数探究基礎	理数探究基礎	1
	理数探究	理数探究	2
理科	物理	物理①	2
	化学	化学①	2
	生物	生物①	2
	地学	地学①	2
芸術	美術Ⅰ	美術Ⅰ	2
	美術Ⅱ	美術Ⅱ	2
外国語	論理・表現Ⅱ	論理・表現Ⅱ	2
音楽	ソルフェージュ	ソルフェージュ1	2
	器楽	器楽1	2
	音楽理論	音楽理論1	2
	◎演奏表現	演奏表現①	1
	音楽史	音楽史①	1
美術	素描	素描1	2
	絵画	平面造形1	2
	彫刻	立体造形1	2
	クラフトデザイン	クラフトデザイン1	2
体育	ビジュアルデザイン	ビジュアルデザイン1	2
	スポーツ総合演習	スポーツ総合演習1	2
	スポーツⅡ	スポーツⅡ	2
	スポーツⅥ	スポーツⅥ①	2
英語	◎福祉スポーツ	福祉スポーツ	2
	エッセイライティングⅠ	エッセイライティングⅠ	2
家庭	ディベート・ディスカッションⅠ	ディベート・ディスカッションⅠ	2
	フードデザイン	フードデザイン	2
福祉	社会福祉基礎	社会福祉基礎1	2
	介護福祉基礎	介護福祉基礎	2
	こころとからだの理解	こころとからだの理解	2
家庭	保育基礎	保育基礎	2
	ビジネス基礎	ビジネス基礎	2
商業	簿記	簿記	4
	情報処理	情報処理	2
	情報Ⅱ	情報Ⅱ	2
情報	情報システムプログラミング	情報システムプログラミング1	2
	情報デザイン	情報デザイン	2

選択 B 群

教科	正式科目名	校内科目名	単位
国語	論理国語	論理国語②	2
	◎論理国語発展	論理国語発展	2
	文学国語	文学国語②	2
	◎文学国語発展	文学国語発展	2
	国語表現	国語表現②	2
	古典探究	古典探究②	2
歴史地理	日本史探究	日本史探究2	3
	世界史探究	世界史探究2	3
数学	数学Ⅲ	数学Ⅲ	3
	数学C	数学C	2
	◎数学ⅠA発展2	数学ⅠA発展2	2
	◎数学ⅡB発展	数学ⅡB発展	2
理科	物理	物理②	2
	化学	化学②	2
	生物	生物②	2
	地学	地学②	2
芸術	美術Ⅱ	美術Ⅱ	2
	美術Ⅲ	美術Ⅲ	2
外国語	論理・表現Ⅲ	論理・表現Ⅲ	2
音楽	ソルフェージュ	ソルフェージュ2	2
	器楽	器楽2	2
	音楽理論	音楽理論2	2
	◎演奏表現	演奏表現②	1
	音楽史	音楽史②	1
美術	素描	素描2	2
	◎課題素描	課題素描	2
	絵画	平面造形2	2
	彫刻	立体造形2	2
	クラフトデザイン	クラフトデザイン2	2
	ビジュアルデザイン	ビジュアルデザイン2	2
体育	構成	構成	2
	スポーツ総合演習	スポーツ総合演習2	2
	スポーツⅢ	スポーツⅢ	2
	スポーツⅥ	スポーツⅥ②	2
英語	◎レクリエーション指導	レクリエーション指導	2
	総合英語Ⅱ	総合英語Ⅱ	2
家庭	エッセイライティングⅡ	エッセイライティングⅡ	2
	ディベート・ディスカッションⅡ	ディベート・ディスカッションⅡ	2
福祉	栄養	栄養	2
	社会福祉基礎	社会福祉基礎2	2
	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術	2
	介護総合演習	社会福祉研究	2
家庭	保育実践	保育実践	2
	グローバル経済	グローバル経済	2
商業	財務会計Ⅰ	財務会計Ⅰ	4
	ビジネス・コミュニケーション	ビジネス・コミュニケーション	2
	ソフトウェア活用	ソフトウェア活用	2
	マーケティング	マーケティング	2
情報	◎情報Ⅰ発展	情報Ⅰ発展	2
	情報実習	情報実習	2
	情報システムプログラミング	情報システムプログラミング2	2
	情報の表現と管理	情報の表現と管理	2

普通科

神戸市立六甲アイランド高等学校
令和7年度入学生

◎は、「学校設定科目」

選択C群

教科名	正式科目名	校内科目名	単位数	2年	3年
国語	論理国語	論理国語①	2	○	
	論理国語	論理国語②	2		○
	◎論理国語発展	論理国語発展	2		○
	文学国語	文学国語①	2	○	
	文学国語	文学国語②	2		○
	◎文学国語発展	文学国語発展	2		○
	国語表現	国語表現①	2	○	
	国語表現	国語表現②	2		○
	古典探究	古典探究①	2	○	
	古典探究	古典探究②	2		○
	◎古典探究発展	古典探究発展	2		○
地歴	日本史探究	日本史探究1	3	○	
	日本史探究	日本史探究2	3		○
	◎日本史探究発展	日本史探究発展	2		○
	世界史探究	世界史探究1	3	○	
	世界史探究	世界史探究2	3		○
	◎世界史探究発展	世界史探究発展	2		○
公民	公共	公共発展	2		○
	倫理	倫理	2		○
	政治・経済	政治・経済	2		○
数学	◎数学ⅠA発展1	数学ⅠA発展1	2	○	
	数学Ⅱ	数学Ⅱ	4	○	
	数学B	数学B	2	○	
	数学C	数学C	2		○
	◎数学ⅠA発展2	数学ⅠA発展2	2		○
	◎数学ⅡB発展	数学ⅡB発展	2		○
	◎数学Ⅲ発展	数学Ⅲ発展	2		○
理数	理数探究基礎	理数探究基礎	1	○	
理科	化学	化学①	2	○	
	化学	化学②	2		○
	◎化学発展	化学発展	2		○
	◎物理発展	物理発展	2		○
	生物	生物①	2	○	
	生物	生物②	2		○
	◎生物発展	生物発展	2		○
	◎理科基礎発展	理科基礎発展	2		○

教科名	正式科目名	校内科目名	単位数	2年	3年
芸術	書道Ⅱ	書道Ⅱ	2	○	○
	◎ガラスアート	ガラスアート	2		○
外国語	論理・表現Ⅱ	論理・表現Ⅱ	2	○	
	論理・表現Ⅲ	論理・表現Ⅲ	2		○
音楽	◎クリエイト・アンサンブル1	クリエイト・アンサンブル1	2	○	○
	◎クリエイト・アンサンブル2	クリエイト・アンサンブル2	2		○
	器楽	器楽1	2	○	○
	器楽	器楽2	2		○
	演奏研究	演奏研究1	2	○	
	演奏研究	演奏研究2	2		○
	作曲	コンピュータ音楽（作曲）	2	○	○
	声楽	声楽1	2	○	○
	声楽	声楽2	2		○
美術	映像表現	映像表現	2		○
	構成	構成	2		○
体育	スポーツⅢ	スポーツⅢ	2		○
英語	総合英語Ⅰ	総合英語Ⅰ	2	○	
	総合英語Ⅱ	総合英語Ⅱ	2		○
	エッセイライティングⅡ	エッセイライティングⅡ	2		○
家庭	フードデザイン	フードデザイン	2	○	
	栄養	栄養	2		○
福祉	社会福祉基礎	社会福祉基礎1	2	○	○
	こころとからだの理解	こころとからだの理解	2	○	○
	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術	2		○
商業	簿記	簿記	4	○	○
	原価計算	原価計算	2	○	○
	マーケティング	マーケティング	2	○	○
	情報処理	情報処理	2	○	○
	プログラミング	プログラミング	2	○	○
	グローバル経済	グローバル経済	2		○
	財務会計Ⅰ	財務会計Ⅰ	4		○
	ソフトウェア活用	ソフトウェア活用	2		○
情報	ビジネス・コミュニケーション	ビジネス・コミュニケーション	2		○
	◎情報Ⅰ発展	情報Ⅰ発展	2		○
情報	情報デザイン	情報デザイン	2	○	○

3.5 運営指導委員会記録

担当：山根 あさか

(1) 第1回運営指導委員会

日時 令和7年10月10日(金) 14:50~16:15
場所 神戸市立六甲アイランド高等学校 大会議室

出席者(敬称略)

兵庫県立大学	鈴木 武	神戸市立青少年科学館	和田 智明
シスメックス株式会社	吉田 智一	奈良国立大学機構	西村 いくこ
甲南大学	茶山 健二	甲南大学	臼井 健二
国立研究開発法人科学技術振興機構	三ツ井 良文	国立研究開発法人科学技術振興機構	前田 さち子
国立研究開発法人科学技術振興機構	権田 智洋	神戸市教育委員会	西山 敏弘
神戸市教育委員会	流郷 隆治	神戸市教育委員会	坂本 圭
神戸市教育委員会	鷺海 伸一	校長	藤田 博久
教頭	村上 ひろ子	教頭	片山 健史
教員	高橋 健太	教員	伊藤 芙悠子
教員	梅村 佳史	教員	萩森 弥助
教員	山根 あさか	教員	石井 教壽
教員	西村 介	教員	中村 彰
教員	福田 直起	教員	吉川 優太
教員	和田 瑞希		

内容

- (1) SSH 事業報告
- (2) 国際共同研究研修 活動報告
- (3) 自然科学研究部 活動報告
- (4) 探究活動に関わる科目の活動報告
- (5) 各取組への指導・助言

※(1)～(4)に関しては、事前に運営指導委員へ報告資料を送付した。当日は以下の4つの小グループに分かれて各取組の課題解決に向けた協議を行い、運営指導委員から指導・助言を受けた。

グループ1

- ・国際共同
- ・神戸学
- ・理数実践

グループ3

- ・理数探究
- ・部活動

グループ2

- ・事業全体
- ・理数探究基礎

グループ4

- ・発展Ⅱ期申請

令和7年10月10日 第1回 SSH 運営指導委員会資料 SSH 事業報告			
1. 特別課題			
	実施日	講師	内容
①	令和7年 5月29日(木)	生まろの科学研究所 橋川 空司 様	アジの観察実習
②	6月19日(木)	神戸市施設部 東水環境センター 小倉 洋平 様	神戸市東灘処理場(下水処理場) 施設見学 本校生徒も対象として東灘処理場にて実施(学校から徒歩まで引継)
③	6月5日(水)	明石市立大分科学園 井上 勇 様、鈴木 康史 様、原田 実紀 様	天体観測及び本校からの天体観望会 本校生徒と神戸市立中学・高等学校、兵庫県下高等学校も対象として本校にて実施。 参加生徒数 32 名。(内、本校生徒 19 名、本校以外の生徒 22 名)
④	6月19日(木)	ペーリナー・インテグリティ株式会社 藤田 智史 様	課題「福祉社会の未来について」のボタナー 選手宣誓者とのディスカッション
⑤	11月20日(水)	川崎重工株式会社 子生 浩馬 様	施設見学型課題。
⑥	12月予定	兵庫県立大学大学院道後復興政策研究科 高木 達也 様	校外実習型課題。
⑦	1月予定	白鷺通商株式会社	施設見学型課題。
⑧	3月予定	シスメックス株式会社	施設見学型課題。
2. 臨海実習			
実施日：7月24日(木)～25日(金) 場所：神戸大学内海産物産物実習センター(マリンサイト)			
※昨年度は本校教員のみで実施し、今年度は神戸大学に協力してもらい実施。 発表講師：上井 達也 様、屋野 雅和 様、小村 裕 様、伊藤 健人 様 内 容：フランドリン、海産物の処理・販売、海産物の構想づくり、専門分野の発表会			
3. 教員研修			
①	実施日：4月3日(木)	講師：高橋	内容：SSHとは、本校のSSH事業について
②	実施日：4月4日(金)	講師：高橋	内容：「神戸学」とは、授業学習指導に拘り、
③	実施日：6月25日(水)	講師：高橋	内容：初任者への授業学習指導
④	実施日：6月5日(水)	講師：高橋	内容：長田中学校にて、小中学校連携に向けて小中高各都の連携報告
4. 探究力IP 講座			
② 年次参加希望者(金系・コース)を対象とした、探究活動のポイントを解説・実演する講座。 開催可能な曜日の放課後に実施。参加申込者 10 名。			
4. 現在の取り組みや助言をいただきたい ・次の期に向けて、現在の事業を継続する上でのポイントや留意点をお伺いしたい。			

事前送付した SSH 事業報告 (イメージ)

○運営指導委員からの意見や助言

- ・神戸学については、進路プランニングと神戸学の内容を明確にし、3年間を見通した探究活動の体系的な流れを示すことが必要。1年次から段階的に課題研究に取り組めるよう内容を再編成し、探究活動に充てる時間の確保を図ること、総合科学系の生徒をトップ層として育成する視点を持つようにする。理数探究基礎・理数探究などの科目を必修化することが望ましい。
- ・第Ⅳ期に向けて、①個人・国際・地域探究の三層構造化、②教員の指導力向上、③地域・大学との連携強化の3点が重要。特に高校内で完結する取組にとどまらず、地域へと探究活動を広げるテーマ設定を考える。第Ⅳ期に向けて理研との連携を強化するべき。
- ・第Ⅳ期に向けて、市立高校としての強みを生かした小・中学校との連携を一層強化して他校との差別化を図るべき。SSHの成果を今以上、積極的に小・中学校に持っていくようにする。その際、教員主導ではなく、生徒を主体とした取組とすることで、より円滑な連携が可能になるのでは。
- ・研究テーマで芸術と理系の融合ができるのは珍しく、系・コースをもつ学校の強みであるのでさらに深化させるとよい。また、ある程度テーマを準備しておくのも手。時間数が限られる中、自由すぎると探究時間が足りなくなる。
- ・探究活動と研究活動は異なるものである。大学や企業で行う高度な実験を実施すること自体が目的ではない。探究活動においては、試行錯誤しながら課題へのアプローチを考える過程そのものに価値があることを、生徒に意識させる必要がある。まずは自分たちが持っている物で何かできないかを創意工夫するべき。
- ・研究レベルを上げたいのであれば大学や企業を頼ればいいが、大学や企業は教えたがってしまう。それでは生徒の考える機会を奪ってしまう。必要になった時に頼れるように、教員や市は準備をしておくべき。
- ・探究活動では、数値のみが結果ではないことを理解しておくことが重要。数値から導き出せることをしっかりと記述して結果となる。考察の一手手前で終わっており、結果について議論する場があった方がよいのではないかと思う。画像などから自分の言葉で説明することで成長につながる。
- ・生徒は変化の結果に着目しがちであるが、何の要因で変化したのかに着目することが大事。統計処理やグラフの作成方法について、大学院生等の協力を得ることも有効ではないか。また、動画教材等を活用し、統計処理能力の向上を図ることもできる。
- ・今日の発表では実験の前提条件は拙いところもあった。ただ質疑応答では、運営委員が聞こうと思っていたことが生徒から質問されることも多々あり、生徒も答えられていた。生徒同士で発表の機会を設け、その質問にどう対策するかを考えて実験するとよい。
- ・国際交流事業ではMOU（基本合意書）を締結することが重要だ。また、生徒の英語力に応じて翻訳アプリやAIによる同時通訳等を使って活発なやりとりをして欲しい。フリーディスカッションでレベルアップを狙う。日本語で話して英訳を映すなど、新ツールも取り込んで探究活動に生かしていく。

(2) 第2回運営指導委員会

令和8年3月4日(水)に開催予定であり、令和7年度の取組の総括及び次年度に向けた助言をいただく予定である。報告書編集時点で未開催のため協議内容については本報告書には掲載していない。

3.6 課題研究テーマ一覧(他系の代表班含む)

担当：梅村 佳史

今年度の課題研究テーマの一覧を以下に示す。

【総合科学系 2 年次(27 期生)】

班	人数	テーマ	班	人数	テーマ
1	3	異なる気体中における音の伝わり方の違い	10	3	ニンジン長く保存する保存方法
2	4	ボールの回転軸とバウンド後の軌道の関係	11	4	バナナが育つ環境は熟すのに適しているのか
3	3	ほこりが服につかないようにするには	12	4	キューティクルの補修効果が高い食品へアパックとは
4	3	トラス橋の耐久性を向上させる方法	13	3	音によるコオロギの成長への影響
5	4	風車模型の羽の形状と回転数の関係性	14	3	空気に触れる時間と菌の量の関係
6	4	ボールと軸足までの距離と速度の関係について	15	3	植物の気孔と音楽の因果関係
7	3	ボールの温度と素材による反発	16	4	昆虫食の嫌悪感について
8	2	果物の非過食部位を使った海洋プラスチックの回収	17	4	香り無くして No Taste ～嗅覚が味覚に与える影響～
9	4	添加物と焼結処理がカゼインプラスチックの強度に与える影響			

総合科学系以外の系及び国際共同研究研修の課題研究テーマについて、それぞれの 2 年次の代表班のテーマを以下に示す。

系・コース	班	人数	テーマ
人文社会系	25	5	推し活による地域の活性化
情報科学系	4	2	先生を助けたい ～遅刻票の提案～
人間科学系 生活福祉コース	9	3	ウタノチカラ
人間科学系 スポーツコース	4	1	INAC 神戸をもっと熱く ～スタジアム満員へのキックオフ～
ビジネス系	4	4	今日、株式好きになりました。～株主優待編～
芸術系 美術・ デザインコース	6	7	お気に入りのぬいぐるみとペアルックができるお店を開業する！
芸術系 音楽コース	1	7	「名曲」の条件に関する検討 —18 世紀以降の西洋音楽を中心として—
国際共同研究研修	1	4	塩漬けによる葉の抗菌効果の向上

総合科学系以外の系の課題研究テーマについて、2年次の代表班以外のテーマを以下に示す。

系・コース	班	人数	テーマ
人文社会系	1	4	1日スマホ無し生活してみた
	2	4	六アイのルール時代遅れかも！？
	3	5	神戸はなぜ平家のターニングポイントとなったのか
	4	5	神戸の祭り文化を探る
	5	5	神戸港を復活させよう！
	6	4	心理テスト作ってみた！
	7	4	理想の大学を提案する
	8	4	四択問題で答えを置きやすい場所はあるのだろうか
	9	4	列の混在回避への道
	10	3	目指せ!NO ストレス
	11	4	観光客が集まる飲食店を須磨に作ろう
	12	3	アンパンマンを世界に広めよう！
	13	4	あつまれ、神戸文化博
	14	4	南京町の未来
	15	4	手作り地図で目指せ魅力的な街！
	16	5	神戸の子供の食育について考える
	17	4	異文化が創る神戸の理想の姿
	18	4	神戸歴史ノート
	19	4	港から広がるハイカラファッション
	20	5	東灘区シークレットマップ
	21	5	tottei ええんちゃう！？
	22	4	六アイ生はまだ本当の神戸の魅力を知らない…。
	23	3	音楽で神戸をより魅力あふれる街に
	24	3	文化の違う国同士でファッション交換すると生活にどう影響するのか
	26	4	殺処分を減らすために
情報科学系	1	3	映えてる写真が撮りたい！
	2	4	スムーズな食堂への道
	3	4	AI 格付けチェック！
	5	3	MONO を超える消しゴムを作る
	6	4	汚い床にもほどがある！

人間科学系 生活福祉コース	1	6	肩崩壊寸前！？ 重すぎるスクバに革命を起こすストラップ
	2	4	時代別無双 JK
	3	4	アレルギー対応の腸活スイーツ
	4	6	前髪が決まれば最強の私たち
	5	4	勉強は上映中
	6	6	その字体、その場所で大丈夫？ ～ミスマッチを防ぐデザイン学～
	7	5	六アイ生にふさわしい間食
	8	4	生活福祉のキャラをつくる！
	10	4	スクールカウンセリングを多くの人に受けてもらうには
	11	4	音楽と心拍数の関係
	12	4	暗記に向く音楽にせまる
人間科学系 スポーツコース	1	3	痛い痛いのとんでいけ
	2	4	伸ばせばいいってもん？
	3	3	指導者って必要？
	4	4	睡眠の質と集中力の関係
	6	4	「真実」か「誠実さ」か ～究極の選択で現れるスポーツマンシップ～
	7	4	補食の概念をぶっ壊す！
	8	4	The best of 深呼吸
ビジネス系	1	4	私を幸せにする結婚
	2	5	” 現金消滅 ” が迫ったその日あなたは どうする？
	3	4	六愛祭で売り上げ 1 位になる方法
	5	4	六甲アイランド高校にコンビニを導入する必要性と実現可能性
	6	4	モテるためには
	7	4	キャッシュレス決済と現金の金銭感覚の違いについて
	8	4	どの SNS が一番視聴者の興味を持つコンテンツを ながしているか
	9	4	電子決済のメリットデメリット
	10	4	YouTube サムネイルの重要性
芸術系 美術・ デザインコース	1	6	神戸の新しいファッションブランドをつくろう
	2	6	神戸の時間や記憶を、日常に持ち帰る
	3	6	かやぶき麻雀カフェ
	4	6	学校のトイレを改造する
	5	6	神戸に 9 人組アイドルグループを作る

3.7 各研究開発における検証結果の詳細

担当：萩森 弥助

各研究開発で行った検証結果について、調査を行った6つの力(A～E)の詳細(a～oの15の要素)を以下に示す。また、調査の際に用いた評価用紙に記述したa～oの各項目の説明は、「P.13 育みたい力の定義と検証方法の概要」に示している。

A 課題設定力		B 企画協働力		C 論理考察力				D 自己学習力		E 表現理解力			F 知識・技能	
a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
課題設定力	課題発見力	実践力	協働力	情報分析力	構想力	論理思考力	社会活用能力	情報収集力	行動持続力	発見力	質問力	語学力	科学的知識・技能	ICT活用能力

理数実践①

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
6月平均	3.7	3.7	4.0	3.7	3.3	3.4	3.4	3.7	3.2	3.7	3.4	2.6	3.1	3.4	3.4
12月平均	3.7	3.7	3.7	3.9	3.7	3.4	3.4	3.3	3.7	3.2	3.5	3.3	2.8	3.1	3.5

理数実践②

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
6月平均	3.7	3.7	3.7	4.0	3.5	3.4	3.6	3.4	3.6	3.3	3.7	3.6	2.9	3.4	3.4
12月平均	3.7	3.8	3.7	4.0	3.6	3.6	3.5	3.6	3.8	3.4	3.8	3.8	3.1	3.5	3.6

理数探究基礎

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
6月平均	3.8	3.7	3.8	4.0	3.5	3.3	3.5	3.3	3.7	3.3	3.7	3.5	2.7	3.5	3.4
12月平均	4.0	4.0	3.9	4.0	3.8	3.7	3.7	3.6	4.0	3.7	3.9	3.9	3.1	3.8	3.9

理数探究

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
6月平均	3.8	3.7	3.8	4.1	3.5	3.2	3.5	3.3	3.6	3.4	3.7	3.5	2.7	3.5	3.3
12月平均	4.0	3.9	3.8	4.0	3.6	3.7	3.7	3.7	3.9	3.7	3.8	3.9	3.1	3.7	3.7

SSH 神戸学

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
1年6月平均	3.6	3.6	4.0	3.6	3.2	3.3	3.3	3.7	3.3	3.5	3.3	2.8	2.9	3.2	3.2
1年12月平均	3.6	3.6	3.6	4.0	3.7	3.3	3.3	3.4	3.7	3.3	3.5	3.3	2.9	2.9	3.3
2年6月平均	3.6	3.6	3.6	3.9	3.5	3.3	3.3	3.3	3.6	3.3	3.5	3.3	2.9	2.9	3.3
2年12月平均	3.7	3.7	3.7	3.9	3.7	3.4	3.4	3.4	3.8	3.4	3.7	3.5	3.2	3.1	3.5
3年6月平均	3.8	3.8	3.8	4.1	3.8	3.4	3.4	3.5	3.8	3.4	3.6	3.5	3.0	2.8	3.3
3年12月平均	3.9	3.8	3.8	4.1	3.8	3.5	3.6	3.6	3.8	3.5	3.7	3.5	3.3	3.0	3.5

特別講義1 アジの解剖

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
実施前 平均	3.5	4.1	3.8	4.1	3.4	3.5	3.6	3.4	3.5	3.5	3.7	3.5	2.4	3.1	3.4
実施後 平均	4.2	4.4	4.2	4.2	4.0	4.0	4.0	3.7	4.0	4.0	3.9	4.0	2.8	3.8	3.5

特別講義2 東水環境センター 施設見学

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
実施前 平均	3.7	4.2	3.7	4.1	3.8	3.3	3.5	3.5	3.6	3.3	3.5	3.4	2.7	2.7	3.2
実施後 平均	3.8	4.4	3.7	3.7	3.5	3.8	3.6	4.0	4.1	3.4	3.4	3.9	3.1	3.1	3.7

特別講義3 ホアイから夜空を眺めよう ～天体観望会 2025～

	A	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
実施前 平均	3.5	3.7	3.4	3.8	3.6	3.3	3.1	3.2	3.2	3.4	3.1	3.1	2.7	2.9	3.4
実施後 平均	3.7	3.8	3.7	4.1	3.8	3.4	3.4	3.1	3.6	3.2	3.8	3.4	2.6	3.0	3.3

特別講義4 製薬会社に行ってみよう！～日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社訪問～

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
実施前 平均	3.6	3.3	3.8	3.5	3.5	3.4	3.1	3.4	3.4	3.1	3.3	3.3	2.6	3.1	3.6
実施後 平均	3.8	3.8	3.8	3.2	3.4	3.4	3.2	3.0	3.6	3.4	3.2	3.6	2.8	3.0	3.4

特別講義5 世界に誇る、わたしたちの地域の「技術」～川崎重工業株式会社～

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
実施前 平均	3.2	3.8	3.4	3.5	3.0	3.2	3.0	3.0	3.1	2.4	3.4	2.8	2.0	3.0	2.9
実施後 平均	3.9	3.9	3.8	4.0	3.9	3.8	3.8	3.9	3.6	3.4	3.9	3.3	2.3	3.4	3.6

特別講義6 湊川周辺のフィールドワークを実施

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
実施前 平均	3.4	3.6	3.4	3.4	3.2	3.4	3.0	3.7	3.6	3.3	3.1	3.3	2.8	3.1	3.4
実施後 平均	3.6	3.8	3.6	3.6	3.4	3.8	3.4	3.6	3.6	3.5	3.4	3.4	3.3	3.3	3.5

特別講義7 日本酒ってどんなしくみで作られているの？

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
実施前 平均	3.6	3.1	3.6	4.1	3.6	3.4	3.1	2.7	3.6	3.0	3.3	3.0	2.7	2.7	3.3
実施後 平均	3.6	3.7	3.4	3.7	3.6	3.6	3.6	3.4	3.9	3.9	3.6	3.1	2.9	3.1	3.6

臨海実習

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
実施前 平均	3.4	3.5	3.6	3.8	3.4	3.6	3.6	3.3	3.4	3.1	3.5	3.2	2.4	3.0	3.5
実施後 平均	3.5	3.5	3.4	3.7	3.4	3.6	3.6	3.2	3.4	3.3	3.5	3.2	2.4	3.2	3.7

SSH 特別講演

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
実施前 平均	3.5	3.6	3.4	3.9	3.6	3.2	3.2	3.3	3.6	3.1	3.4	3.2	2.9	2.8	3.3
実施後 平均	3.7	3.7	3.6	3.8	3.7	3.4	3.4	3.4	3.7	3.4	3.5	3.4	3.0	3.0	3.5

3.8 用語集及び資料

担当：山根 あさか

(1)用語集

- 本校独自の取組の用語や略称について、以下に示す。
- 「教育課程研究協議会」…神戸市立高等学校教員の悉皆研修。全教員が参加する「全体会」と、教科ごとに分かれる「教科グループ研究会」が存在する。
- 「神戸学」…本校の2、3年次の「総合的な探究の時間」の名称。全ての系・コースの生徒が探究活動を行う。1年次の「総合的な探究の時間」は、前半は進路学習を中心に行う「進路プランニング」、後半は2年次の「神戸学」に向けて探究活動の基礎を学ぶ「プレ神戸学」という。
- 「国際共同研究研修」…年間を通じて研究活動に取り組み、その過程で海外の学校と研究成果の交流や共同研究を行う、参加希望生徒を対象とした取組。この中で行う海外現地での研修を「海外研修」、国内の施設訪問を通じた研修を「国内研修」という。
- 「特別講義」…放課後や長期休業中に参加希望生徒を対象に、外部の専門家を招いたり施設を訪問したりして実施する参加希望生徒を対象とした講義。指定第Ⅲ期は、一部を神戸市立中学校・兵庫県下の高等学校にも案内している。
- 「理数実践」…SSHの教育課程上の特例を活用して開講している理数科の学校設定科目。
- 「SSH 特別講演」…年1回、全校生徒を対象に著名な科学分野の専門家を招いて実施する講演。
- 「Rokuai English Club」…国際共同研究研修のメンバーの英語力向上を目指し、毎週月曜日の放課後に実施する科学英会話教室。

(2)資料

本校で今年度使用した「授業改善評価アンケート」の様式を以下に示す。6月と11月に実施した。

年 組 番号

0 0 0 0 0 0

1 1 1 1 1 1

2 2 2 2 2 2

3 3 3 3 3 3

4 4 4 4 4 4

5 5 5 5 5 5

6 6 6 6 6 6

7 7 7 7 7 7

8 8 8 8 8 8

9 9 9 9 9 9

※ 1組→01 1番→01をマーク

授業名

授業者(先生)の名前

先生

先生

※ 1名の場合、1名のみ記入。

アンケートを実施している「この授業」について、思い出しながら回答してください。

授業改善評価アンケート(2025年度)

1～6の質問について、あなたに最も当てはまる番号をマークしてください。7～8は記述形式です。
①:強くそうとは思わない ②:そうとは思わない ③:どちらでもない ④:そう思う ⑤:強くそう思う

この授業の教科を教えてください(授業担当の先生から指示があります)。
1…国語 2…地歴公民 3…数学 4…理科 5…保健体育 6…音楽
7…美術 8…書道 9…家庭 0…外国語 a…商業 b…情報 c…福祉
※ 理数科は 3 と 4 の2つをマークしてください。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 a b c

1. 前回までの授業やこれまで学んだ内容、その時間に学んだことを授業の中で振り返る時間はありましたか。

1 2 3 4 5

2. 一方的に先生の話を聞くだけでなく、自分で考えたり、自分の考えを表現したりする場はありましたか。

1 2 3 4 5

3. 毎回の授業や単元ごとの到達目標(目指す姿、身に付けたい力)は明確に示されていましたか。

1 2 3 4 5

4. 授業中、他の人(生徒・先生・外部の方)とのコミュニケーション活動を通じて、自分と他の考えを聴いたり、他の人の意見に触れたりして、自分の考えを広げたり深めたりすることができましたか。

1 2 3 4 5

5. 授業で学んだことを、授業以外の場面や生活の中で活かすことができましたか。

1 2 3 4 5

6. 1週間のうち、授業外でどれくらいの時間、この授業に関する学習に取り組んでいますか。(宿題含む)

1 2 3 4 5

7. 生徒の皆さんが主体となって行った活動(自分たちで疑問やテーマを決めたり、自分たちで情報を集めたり、自分たちで考え行動したり、自分たちでまとめて発表したりなど)があったかどうかを教えてください。「あった」と答えた人は、印象に残っているものを教えてください。
①…あった ②…なかった

1 2

記述欄(あった場合)

8. これまで授業の良かった点や改善点など、自由に記入してください。

記述欄

1 e.のみ選択する番号の意味が異なります。
①0 ②1時間未満 ③1時間～2時間
④2時間～3時間 ⑤3時間以上

質問は以上です。協力ありがとうございました！
結果については集計し、授業担当の先生に返却します。

30